

平成24年度第3回定例社会教育委員会議事録（議事要旨）

1 **開催日時** 平成24年9月20日（木）午後2時～4時15分

2 **開催場所** 中央図書館 2階 視聴覚室

3 **出席者**

（委員）

舟田委員長、杉山副委員長、米山委員、佐藤委員、松木委員、松浦委員、土井委員、山崎委員、布施谷委員、宮本委員、工藤委員

（事務局）

教育長、生涯学習部長、生涯学習部次長、生涯学習課長、生涯学習課主幹、郷土博物館長、青少年センター所長、市民スポーツ課長、運動公園スポーツ施設整備課長、高洲公民館長、中央公民館長、堀江公民館長、富岡公民館長、美浜公民館長、当代島公民館長、日の出公民館長、中央図書館長、生涯学習係

4 **議 題**

（1）協議事項

1）社会教育関係団体の認定について（3件）

（2）報告事項

- 1）社会教育関係団体の解散の報告について
- 2）平成24年度第32回市美術展の開催について
- 3）平成24年度浦安市公民館文化祭について
- 4）浦安スポーツフェア2012の開催について
- 5）第22回東京ベイ浦安シティマラソンの開催について
- 6）浦安市生涯学習推進計画策定について

（3）その他

1）次回会議日程について

5 **議事概要及び会議経過**

（1）協議事項

1）社会教育関係団体の認定について（3件）

生涯学習課長より概要を説明し、「花木蘭拳（ファームーランケン）サークル」「浦安山楽会」の認定を承認した。

なお、「浦安南MBC」の認定申請については取り下げとし、再調査の上、次回再度提出することとした。

委員からの主な質問および意見は、次のとおり。

《花木蘭拳（ファームーランケン）サークル》

（委員長）会員数が10名と少ないが、会員を増やす工夫をした方がよいのではないか。

（事務局）会員募集は様々な形で行っていると聞いており、年内には何人か入会予定ということである。継続して会員を増やす努力をするように話したい。

（委員）会員について、市内・市外の規定はないのか。

（事務局）基本的には市内在住・在勤が望ましいが、市外者が会員にならないということはない。

- (委員) 女性が多いが、女性特有の舞踊なのか。
- (事務局) 動きが緩やかで、女性にとって入りやすい活動なのではないか。
- (委員) 昨年11月に大学祭で披露した時には、結構人数が多かった。臨時で参加している人もいたのか、3, 40名いた。今後も広がりを持ってやっていくのではないかと思う。宮廷演舞ということで、扇を持って踊るので、女性になじみやすい印象を受けた。
- (委員長) もう少し会員を増やしてもらわないと心配である。会員を増やしていただくということで、承認してはどうか。せめて15, 6人くらいにしてもらいたい。

《浦安南MBC》

- (事務局) 今回、議案として提出したが、取り下げをお願いしたい。小学校のミニバスケットボールクラブということだが、他校にも同様のクラブがあり、他団体の状況も把握するため、事務局で再調査したい。
- (委員) 南小のクラブとは違うのか。
- (事務局) 南小の部活動として活動しているチームがあるが、そこから選抜された子どもたちが、5時以降は社会体育として活動している。詳細な活動実態を把握していないので、学校と社体がどういう位置づけになっているのかなど、学校にも状況を聞いた上で、次回会議に改めて提出したいと考えている。
- (委員) 18校中17校にクラブがある。ぜひ調査をお願いしたい。
- (委員長) これを社会教育関係団体にすると、野球もサッカーも全部入ってくるのではないか。
- (事務局) そうである。
- (委員) もっと練習したいということだと思う。
- (事務局) 5時までは部活として、5時を過ぎると社会体育として活動している。土日も社会体育としてやっている。学校ごとで対応が統一されているわけではないので、その辺の実態も調べたい。
- (委員長) 事務局で再度調べていただきたい。

《浦安山楽会》

- (委員長) 山登りの会は、他にもあるのか。
- (事務局) 通常は体育協会に山岳会が入っているが、浦安にはまだない。任意団体として活動しているのは、この団体しか把握していない。
- (委員) 最高齢は何歳か。
- (事務局) 会員の年齢は把握していない。今後、調べていきたい。
- (委員) リーダー経費というのとは何か。
- (事務局) 毎回リーダーを立てて早くから準備しているので、それに伴う経費ということである。
- (委員長) 24年度予算の積算が誤っているようなので、訂正してほしい。承認ということではよろしいか。
- (委員) はい。

(2) 報告事項

- 1) 社会教育関係団体の解散について
生涯学習課長より報告した。
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員長) 子ども会の現状はどうなっているのか。

- (委員) 学校単位であるのではないか。
- (委員) 子ども会は任意団体なので、PTAの中にはない。
- (事務局) 浦安小学校は地区ごとに子ども会ができていますので、全員が子ども会に加盟している。
- (委員長) 教育委員会としては、なるべく子ども会を充実させようという方向なのか。子ども会の数が減っていく傾向にあるのか。
- (委員) 土日に活動があるので、部活動などをやっている子どもは参加できない。名前だけ置いていても心苦しいので、結局退会したいきさつがある。土日に体が空いている子どもが、現状少ない。
- (事務局) 現在はこども部の所管で教育委員会の所管ではないので、具体的なことは言えないが、今の話のように子どもの活動が多様化・専門化している状況があって、地縁系の団体よりも何か目的を持った団体に入る傾向があると思う。
- (委員長) 入船北小ではどうか。
- (委員) 子ども会に入っているという話は、あまり聞かない。
- (委員長) 昔は夏休みが始まる前に、地区別に子ども会で何かやったりしていたが、今はもうないのか。
- (委員) 浦小はある。夏休みのラジオ体操などもやっている。
- (委員) 浦安市子連の指導者部もしているが、高学年になると参加が少なくなるのと、親の役員の成り手がいないという現状がある。
- (委員) 浦小はPTAの中に子ども会組織があり、いろんな行事や廃品回収もやっている。地域の子どもたちを楽しませてやろうということで活動している。PTAの下部組織みたいな形で続いている。
- (委員) 南小はあった記憶はあるが、それぞれ独立した活動をしていたのかどうか、あまり記憶がない。
- (委員長) 中途半端な会になっているのではないか。大人の責任ではないか、話し合う必要があるかもしれない。親が役をやるのが嫌で活動ができないというのもどうなのか。
- 2) 平成24年度第32回市美術展の開催について
生涯学習課主幹より報告した。
- 3) 平成24年度浦安市公民館文化祭について
各公民館長より報告した。
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員長) 地域の小中学生等が積極的に参加するということで、地域に根付いたお祭りになっていて、非常に嬉しく思う。地域全体で大いに盛り上げていただきたい。毎年行っているが、大変華やいだ文化祭で感心している。
- 4) 浦安スポーツフェア2012の開催について
市民スポーツ課長より報告した。
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員) 協賛の内容はどのようなことか。
- (事務局) ハンドタオルや飲料水、参加賞の一部を協賛としていただいている。
- 5) 第22回東京ベイ浦安シティマラソンの開催について
市民スポーツ課長より報告した。
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員) 参加料が結構かかるが、それに見合うような参加賞があるのか。

- (事務局) オリジナルのTシャツが1,000円近くする。それに飲料水やタオル等を参加賞として差し上げている。
- 6) 浦安市生涯学習推進計画策定について
生涯学習課長および生涯学習係長より報告した。
委員からの主な質問および意見は、次のとおり。
- (委員) 目玉の施策があれば教えてほしい。市民意識調査の中で、どんな点が見られたか。
- (事務局) 市民意識調査の結果からは、大きく6点ある。1点目は、7割以上が生涯学習活動に取り組んでいるが、3割は何もしていないというデータが出ている。そういう人たちの要望として、特に就労者の方から、施設の夜間利用や土日の講座の充実が挙がっている。同じように子育て世代の方については、既に実施しているところもあるが、保育付き講座を増やしてほしいというニーズがある。また、就職や仕事に役立つような実益のある講座や、高齢者の学習支援、防災教育に対する関心の高さ、家庭教育の充実など、学習機会の充実ということがかなりのウエイトを占めている。
- 2点目は、学習情報の提供の仕方が課題である。
- 3点目は、生涯学習施設の運営の充実ということで、施設利用について不公平感を感じるという意見もあった。社会教育関係団体や公民館サークルのあり方についてもご意見があった。
- 4点目は、学習成果の還元として、学んだ成果を生かせるような場の提供や機会があったらいいのではないかと、そうしたシステムづくりが望まれている。
- 5点目は、大きく言うと市民協働ということで、市内にはリタイアした方も含めて知識や経験豊富な方がいるので、そうした人材の発掘や活用を進めていけるような仕組みづくりが求められている。やはり、学んだものを地域に生かす仕組みづくりが声として上がっている。それから、協働の担い手という話がよく出るが、市民大学のあり方について、この計画の中でどのように反映していくのか。
- 6点目は、家庭・学校・地域の連携として、学校支援機能の充実や地域の子育て支援のための仕組みづくりが必要ではないかという声もいただいている。
- そういう意味では、こうした要望に満遍なく応える計画を考えている。今申し上げた課題にどう応えていくかということで、計画の充実を図りたい。
- (事務局) 目玉については、大きく言えば基本施策の5番目になる「地域に生きる生涯学習活動の支援」という部分になる。平成18年に行われた教育基本法改正でも、生涯学習の理念として、学んだ成果を適切に生かせる社会の実現を図ることが定義されているので、地域還元という辺りが一つの目玉になると捉えている。
- もちろん、生涯学習自体が、自分で学んで自己で完結するというのが基本スタンスかもしれないが、生涯学習を推進していく上では、学んだものを地域に還元していこうというようにしていきたい。
- (委員) 「現状と課題」というのは5年計画の中に盛り込まれているの

- か。それとも計画は立てても、この現状と課題は残るのか。
- (事務局) 今を含めた「現状と課題」は計画の中に反映している。
- (委員) 課題の中に「学習の場の提供」とあるが、公民館は市民の活動する場なのに、土曜日に祝日が重なると閉館している。こういう運営方法については、どこかで検討されているのか。
- (事務局) 基本施策Ⅰ－３の既存施設の運営のあり方の部分で、休日の開館についても検討していく予定である。
- (委員) 本当は年中無休の方がよい。行政側の施設とすると、管理運営で定休日を作りたいのだろうが、市民施設としては年中無休であるべきである。
- (事務局) 施設はいつでも開いているのが利用者側には一番よいと思うが、運営経費もかかるので、今回の震災を受けて長期的に見た時に、なかなか右肩上がりの計画というのはできない。そういう意味では、かなり工夫しなければいけない。施設運営もこれまでどおりやるのではなく、運営経費を上げずに利用しやすい施設運営はどうあるべきかを考えながら、ある意味メリハリをつけた施設運営ができないか、工夫をしていくことが今回の計画の中には必要と考えている。
- (委員) それは、この計画の中に具体的には盛り込んでいないのか。これから検討課題としてやっていくということか。
- (事務局) この５年の中で見直すこととして書き込んでいく。
- (委員) こういう計画を作るとなると、やはり新しいことを何かやっていこうということになる。特に施設の整備などは、どうしても金が絡んでくる。予算的な裏づけは保障されているのか。
- (事務局) 市としては、向こう５年間は復興計画が最優先ということで、予算としては厳しい部分があるという話はあった。
- (委員) 「生涯スポーツの振興と健康づくりの推進」のところで、最近小中学校の統廃合を耳にしているが、運動場や体育館の行く先はどうなるのか。
- (事務局) 平成27年度に入船地区の小学校を統合する予定である。後に残る学校をどう使うかについては市長公室で検討しており、まだはっきり決まっていない。
- (委員) 運動場や体育館が使えなくなると困る人たちがいる。おそらく、受け入れられるところがないのではないか。
- (事務局) 学校の施設利用については、固定化されてしまっており、新しい団体が入っていけないという課題があるので、それも含めて計画の中で検討できればと考えている。
- (委員) 生徒数が減っているのか。
- (委員) 減っている。増える状況ではない。跡地利用への関心は強い。地域の人役に立つ利用をしてもらいたい。
- (委員) いじめの問題の根本的な対応は何か。それに対する対応はどこに入っているのか。
- (事務局) いじめと明記した部分はないが、入るとすれば基本施策Ⅱ－１の「家庭教育の充実」やⅡ－２の「青少年の健全育成の推進」に織り込む形になるのではないか。
- (事務局) 直接的にいじめについてどうかは、ここに書く話ではないと思うが、少なくとも人権教育については、家庭教育や成人教育の

中で取り組んでいくと思う。根本にある人間教育というところは欠かせないと思う。

- (委員) 「家庭教育の充実」の中に「相談体制の充実」とあるので、この辺りで学校の先生と違って、どういう組織で地域の子どもの相談にのるかを検討してはどうか。
- (事務局) 教育に関する相談業務は、市内にたくさんある。青少年センターでも、2名の家庭教育指導員が電話や来庁での相談に応じている。学校ではカウンセラーが対応しているが、学校でも打ち明けられない悩みや不登校の相談を受けている。そういう窓口があることを、学校を回って紹介したり、広報紙で宣伝したりしているが、なかなか周知徹底ができていない。さらに工夫して、広げていく必要があると考えている。
- (委員) いじめが起きた時の具体的な対策を書くのではなく、結果的にいじめが少なくなったり、なくなったという傾向を、この計画の中で作らなくてはならない。その事業がほしい。いじめの子、いじめられる子は、家庭教育で作られる。親が強く、優しく、思いやりのある子に育てれば、いじめはなくなる。「親が学ぶ機会」「親子がふれあう機会」という中身でやれば、結果的には減っていく。そういう施策が必要。たとえば、よく公民館で親子映画会をやっているが、こちらから押しかけて、学校で映画会をやるとか。できれば親も呼ぶ。子どもたちにそういうものを見せることで、子どもの気持ちが変わってくる。そういう施策をどこかで入れておくと、いじめは減っていく。
- (事務局) 地域社会からアプローチしていただいている。それが非常に重要で、我々がある意味一番重きを置きたいのは、学校と地域がどうつながるかというところで、地域の人たちがどれだけ子どもたちに接する機会が多くなるかによって、子どもたちが健全に育成されるかという部分があると思う。
- そういう意味では、公民館の文化祭に地域の子どもが参加することもあるし、学校に公民館から行ってみたりということがある。そういうことをどんどん増やして、公民館だけでなく地域の方々がなんらかの関係で学校とうまく連携できるような形をつくっていくことが、そのようなことにつながってくるのではないかと考えている。
- (委員長) 生涯学習の講座などで技術が上達するだけが目的ではないと思う。それを通して色々な人と知り合うことも、生涯学習のよいところだと思う。何か好きなことをやって、それを通して交わりたいという人を育てて、その人たちが共に働く。土日の開館は職員だけではできっこないので、市民が手伝っていく体制づくりが検討できないか。学習を通して仲間づくりをする、そういうシステムをつくってほしい。
- (委員) 子どもも大人も仲間づくり。仲間が増えると、助け合っと思いやりが出てくる。地域のためには、お互いが友達にならなければならない。祭りがあると、地域の輪ができて、活発になる。何かあった時に助けあう気持ちが出てくる。生涯学習も、そこに目的があるとよい。文字にすると理想的な建前論で、読んで分らないが、その中に具体的な友達づくり、輪づくりがあ

ると、大きな目的が出てくると思う。

(委員長) 海外派遣や洋上研修などの事業が、一年ぽっきりで切れてしまう。10年後もボランティアさせるなど、継続性のある事業にして、つないでいくものがないと切れてしまう。

次回の会議では、もう一度具体的な計画が出てくると思うので、また協議したい。

(3) その他

1) 次回会議日程について

次回の会議は、平成24年11月15日（木）午後2時から中央図書館視聴覚室で開催する。

以 上